

次号予告

特集 ファシリテーション・テクニック(2)

脳性麻痺に対する

ファシリテーション・テクニック……………	長崎大学・整形	穂山 富太郎
〃……………	大手前整肢学園	富 雅 男
〃……………	北療育園	中 島 雅之輔
〃……………	聖母整肢園	紀 伊 克 昌
〃……………	吹田療育園	山 田 貞 雄

<感想>脳性麻痺に対する

ファシリテーション・テクニック……………	聖母整肢園	梶 浦 一 郎
〃……………	別府整肢園	佐 竹 孝 之
〃……………	整肢療護園	児 玉 和 夫
〃……………	愛知コロニー	河 村 光 俊
〃……………	栃木県身障センター	福 田 恵美子

とびら 60点……………	高知リハ学院	中 屋 久 長
講座 失行症・失認症Ⅲ……………	東大	上 田 敏
てんかんとリハビリテーション		
1. てんかんの医療……………	東京女子医大	杉江 秀夫・他
ミニ対談 補装具製作者と理学療法士……………	名古屋市身体障害者更生相談所	中 島 鈴 夫
	田沢製作所	田 沢 泰 弘
プロGRESS リウマチ(6)……………	神奈川県リハセンター七沢病院	岡 崎 健
児童精神衛生における最近の諸問題(6)		
集団療法……………	国立精神衛生研究所	池 田 由 子

編集後記

今回と次回の本誌の特集は「ファシリテーション・テクニック」という大きなテーマで特集を組みました。

今回は、総論および成人片麻痺のファシリテーションについて、今回は、脳性麻痺のファシリテーションに関して書いていただきました。

上田氏には、特集の序論も兼ねて総論を、中村氏には、基礎的原理をわかりやすくまとめていただきました。また、大川氏・他は統計的資料を基に、日本における客観的な現状分析を通して、今後の治療のあり方を示唆されているようです。半田・柳沢両氏には、日頃の臨床経験から得られた治療手技を御紹介いただきました。柴田氏には、OTの立場から、主に上肢機能訓練の面から論じていただきました。

感想では、福井・和才・前田氏から、それぞれ忌憚のない御意見をうかがいました。どの論文も各先生方の日頃の研究成果、臨床経験が豊富に述べられており、次

回もあわせて是非参考にさせていただきたいと思います。

ミニ対談では、言語治療士の竹内氏がSTの「教育・資格制度の充実」をうたえておられます。とびらの初山氏も主張なさっていますように、リハビリテーションチームの協力体制確立のためにも、一日も早く資格の法制化を望みたいものです。

講座「住まいと身体障害」は今回が最終回です。坂本氏の“メーカーから”は、医療職種とは異なる立場から、幅広い、有意義な考えを書かれております。特にⅠ.基本姿勢の中の「我々のできることはそれぞれの専門分野において、体の不自由な人々の負っている社会的ハンディキャップを排除くことであろうと考えている。」という御意見は、深く共感を覚えるものです。

いままで同講座のシリーズを御執筆いただいた先生方に、御礼申し上げます。また講座「失行症・失認症Ⅲ」(上田氏)は都合により、本号では休ませていただき次号(13巻6号)で掲載させていただきます。

(編集室)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長

五味 重 春
筑波大学心身障害学系教授

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
わらび診療所

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

鈴木 明 子
府中リハビリ専門学校

寺 山 久美子
都心障センター

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大 橋 博

大 丸 幸

金 子 翼

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

駒 沢 治 夫

佐 藤 章

佐 藤 馨

嶋 田 智 明

高 橋 正 明

武 富 由 雄

谷 岡 淳

富 岡 詔 子

中 屋 久 長

藤 沢 しげ子

松 本 妙 子

丸 谷 隆 明

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

和 才 嘉 昭

(担当 細田・西塚)